木曽三川流域
ECONET NEWS

木曽三川流域 エコネット応援団
ニュースレター【第11号】

2020.10.26

◎本ニュースレターは、木曽三川流域におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関連する地域の取り組み情報を発信するものです◎

今年度初のニュースレターです。昨今、手と手をとって「つながること」は難しくなっておりますが、ここでは、情報の共有を通じて、木曽三川流域で活動される皆さんをつなげ・皆さんの活動を少しでも応援できればと思っています。関連行事等の開催情報は少なめで、例年と同じペースではいかないかと思いますが、できるだけ情報発信していきますので、ぜひ応援団の皆さんも活動状況などご提供ください。（今回は、これまでに「感染症予防に配慮しながらこんな活動をしました」と情報提供いただいた活動結果をいくつかご報告します。）

一宮市尾西歴史民俗資料館 ワークショップ「木曽川イタセンパラを守るには」の成果が期間限定で展示されました

イタセンパラなどのワンド生物を守ろうと、一宮市尾西歴史民俗資料館企画により、地域の高校生が中心となって継続されてきたワークショップが今年も実施されました。

感染症予防に配慮し、今年は成果展示が中心で、期間中（2020年8月）にイタセンパラ保護等に取り組む地域関係者の活動紹介パネルや作品がずらりと並びました。

展示の目玉は、一宮高校生物部が手掛けた水そう展示2種。1つは「楽園ワンド」と名付けられた屋内水そうで、優雅に泳ぐ魚たちが木曽川ワンドに潜ったかのように観察できる生態展示でした（タモロコ、ゼゼラ、トウカイヨシノボリ、イシガイなど）。もう1つは「リトルワンド」と名付けられた野外水そうで、水辺の植物がぴょんぴょん飛び出た水面がのぞきこめる構造で、実際にワンドの前に立ったような雰囲気でした。

これらの水そうは、同高生徒らが、専門家（岐阜大学、環境省、国交省等）に木曽川現地でアドバイスを受けながら、生物や材料を採取し、見る人が楽しくワンド環境を感じられるよう製作したもの。現地で聞こえる鳥の声まで聞こえる仕組みで、来館者の皆さんにも好評だったそうです。

ほかにも、木曽川高校総合実務部の皆さんによる二枚貝の貝殻食痕調査（ヌートリア食害の影響を考える）の成果展示など内容は盛りだくさんで、関係者が一堂に集まることはできなくても、イタセンパラを守る気持ちはぎゅぎゅっとつまった展示会でした。

▼一宮高校生物部による水そう展示の企画会議と完成した水そう（ワンドらしさを伝える工夫について、1年生を中心に、熱い議論が交わされました）

▲現地採取した生物はレイアウトにもこだわって展示。伊藤健吾先生（岐阜大応用生物科学部）にアドバイスをもらいながら

▲ずらりと並んだイタセンパラ保護に取り組む皆さんの活動紹介パネル（一宮高校生物部、木曽川高校総合実務部、NPO法人流域環境保全ネットワーク、世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ、名古屋市東山動植物園世界のメダカ館、碧南海浜水族館、羽島市イタセンパラサポーター、環境省中部地方環境事務所、国土交通省木曽川上流河川事務所など）

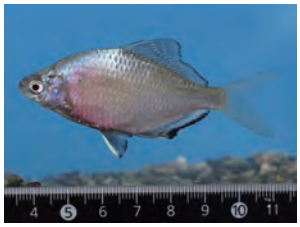
▲木曽川高校総合実務部による二枚貝調査の研究成果展示（生態解説用折り紙もすてき！）

木曽川水系イタセンパラ保護協議会 イタセンパラ密漁防止に向けた現地パトロールを実施

毎春、イタセンパラの保護啓発を兼ね、参加者公募により開催されてきた木曽川水系イタセンパラ保護協議会「合同パトロール」。第12回目となる今年は、感染症拡散防止に配慮し、例年の参加者公募を見送り、協議会関係者のみでパトロールが行われました（2020年6月28日）。

協議会では、この機会に密漁抑止効果を上げようと、日時を公表せず抜き打ちで、警察関係者含む総勢約40名で、目立つオレンジ色のたすきを掛け、木曽川ワンド周辺を見回り、保全啓発活動が行われていることをアピールされたとのこと。

また、木曽川両岸の2箇所（羽島市・一宮市）をオンライン中継しながら行われるなど、人が分散することでパトロールの効果が高まるよう、工夫がこらされていました。



▲国の天然記念物イタセンパラ。許可なく採捕することは法律で禁止されています

▲パトロールのようす

羽島市立小学校の子どもたちが 地域の宝ものイタセンパラ飼育をがんばっています

かつて市内に広く生息したイタセンパラを「地域の宝もの」として、羽島市イタセンパラサポーターを立ち上げるなど、保護啓発に取り組む羽島市では、木曽川近郊数箇所の小学校で、児童らがイタセンパラの飼育に取り組んでいます。

学校へやってきたイタセンパラは、子どもたちから大歓迎を受け、正木小学校では、飼育担当の5年生が岐阜県水産研究所の方（保護増殖を担当）に、熱心に質問（昔はどれくらいいたの？、どれぐらい卵を産むの？）していました。

また、桑原学園では、飼育担当の小学4年生がイタセンパラ歓迎会（ミニ劇場：はじめましてぼくたちイタセンパラなど）で出迎えてくれました。

▲水そう展示のようす（羽島市立正木小学校）

▲イタセンパラ歓迎会のようす（羽島市立桑原学園 小学校4年生）

※環境省より許可・協力を受け、保護増殖事業により人工繁殖された個体の一部を飼育している取り組みです

イタセンパラの泳ぐ姿をみてみませんか？

今年も、環境省のイタセンパラ保護事業において、系統保存等を目的として保護増殖された個体の一部が、一宮市・羽島市を中心に、小中高等学校・民間企業・自治体施設などで飼育されています。絶滅の危機に瀕するイタセンパラ保護の普及啓発等を目的とした取り組みで、一部施設の水そうは一般公開されています。見に行くなら、繁殖期にあたる今の季節（秋）がおすすめで、鮮やかな婚姻色に色づいたオス個体がみられるかもしれません。

イタセンパラ飼育水そう一般公開中の施設等（2020.10.1時点）

◎一宮市尾西歴史民俗資料館（一宮市起字下町 211）
◎木曽川上流河川事務所（岐阜市忠節町 5-1）
◎羽島市立図書館（羽島市竹花町丸の内 6-2）
◎尾西信用金庫本店（一宮市篭屋 1-4-3）
◎三井住友信託銀行一宮支店（一宮市栄 3-7-15）

※見学できるのは各施設・店舗の営業時間中に限ります（無料）。イタセンパラの状態や、感染症予防の観点から、展示が終了中止・制限されている場合があります。

マリンチャレンジプログラム 2020 一宮高校生物部イタセンパラ班の皆さんが関西地区・優秀賞を受賞されました

おめでとうございます！

イタセンパラ保護につなげようと、タナゴ属の人工産卵装置の開発研究に取り組む一宮高校生物部イタセンパラ班の皆さんからうれしいお知らせです。研究成果がマリンチャレンジプログラム関西地区大会（2020年8 月30日）で優秀賞を受賞され、全国大会へ進出とのこと。

研究はカネヒラ（イタセンパラと同じ秋産卵型 ）を用いて行われ、産卵を促すのではないかと考えた産卵母貝の匂いと精子の要素を放出するような装置を開発・設置し、カネヒラが示す行動を観察しているそう。部長さんらは「まだ産卵には至っていないけれど、今回のチャレンジは、産卵成功に向けての大きな一歩」と話してくれました。

大会はオンラインで開催され、主催者さんより「情熱がオンラインでもしっかり伝わってきた。独自に繁殖装置を開発し、検証方法にも工夫があり、今後の結果が非常に楽しみ」と評価を受けておられました。

実験水そうのカネヒラ

※マリンチャレンジプログラム：日本財団・JASTO・株式会社リバネスにより、海と日本 PROJECT の 一環として実施されており、条件によりオンライン面談サポートなどの助成が受けられます（2020年度募集は終了）。

木曽三川流域おさかなコラム vol.6

ホトケドジョウは シミズにすむ ありがた〜い カンスケ様？

みなさんご存じドジョウのなかまに「ホトケドジョウ」というありがたい名前の魚がいます。いわゆるふつうのドジョウよりちょっと小柄でヒゲが少なく（ホトケドジョウは 8 本でドジョウは 10 本）、ずんぐりむっくりした体つきのかわいい魚です。

川よりは湧水が湧く里山の水路やため池などでみられます。木曽三川流域でも、数は少ないながらそこかしこにみられ、津屋川水系など美しい湧水地がたくさん残る濃尾平野にも広く生息しています。

名前の由来は所説あるようで、お寺や神社の周りでよく採れるから、美味しくて仏様しか食べちゃダメだから、はたまた美味しくなさすぎて仏様くらいしか食べないからとも聞かれます。

味のほうはさておき、ホトケドジョウがすむ湧水の周りにはお寺や神社、水神様の祠などをよくみますので、なにかしら関係があるのかもしれません。

ちなみに、ホトケドジョウは人里近くでみられるからか、ご当地ネーム（地方名）が多く、愛知県ではシミズドジョウ、岐阜県ではカンスケドジョウと呼ばれているようです。“シミズ”はきれいな水が連想されてしっくりきますが、“カンスケ”は調べてみてもさっぱりわかりません（ご存じの方教えてください）。地元の人にしかわからないような、地域の文化に根差した由来なのでしょうか、きっと昔から親しまれてきたのだろうと想像します。

このホトケドジョウは、湧水がある泥っぽく植物がたくさん生えたところにすんでおり、泥の中や植物の根の隙間に潜り込んでいることが多いため、探しに行っても発見が難しい魚です。反面、動きが素早くないため、湧水でひたひたになっている泥を掬ったら、素手でとれたなんてこともあります。『鰯の頭も信心から』の気持ちで探してみれば、出会えるかもしれない。そんなところも名前に仏様を冠していることを思わせて、のほほんとした顔がなんともありがたく見えてしまいます。

facebookページはこちらからアクセス！
https://www.facebook.com/kisosanseneconet/

掲載用情報を募集しています！

事務局では、このニュースレターや facebook ページで、木曽三川流域におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関連する地域の取り組み情報を発信しています。生物多様性の保全や生きものを活用した地域づくりなど、応援団の皆さんからの投稿・情報提供を随時募集中です。下記お問い合わせ先まで、お気軽に情報をおよせください。
（なお、紙面の都合等で取材・掲載できない場合もありますこと、予めご了承ください。）

木曽三川流域 エコネット応援団 ～人を自然を地域をつなげる～

木曽三川流域生態系ネットワーク推進協議会（事務局：国土交通省木曽川上流河川事務所）は、川とともに育まれてきた流域の自然や文化を保全・活用し、地域の魅力を向上させるとともに、人と自然・人と人との絆を深めることを目的とし、流域の市民団体・自治体・有識者・河川管理者等によって、平成 26 年度に設立されました。

本協議会では、木曽三川流域において、自然環境を保全・再生・創出してつなげる「生態系ネットワーク形成」に関連する活動を行う（または賛同する）、地域のさまざまな団体等に参加していただく「木曽三川流域エコネット応援団」を結成しています。応援団の皆さんの活動に関する情報共有等を図ることにより、地域の交流・協働を促進し、取り組みのさらなる発展を目指していきます。

「木曽三川流域生態系ネットワーク」ホームページ〈http://www.cbr.mlit.go.jp/kisojyo/econet/index.html〉↑

木曽三川流域エコネット応援団 事務局：国土交通省 木曽川上流河川事務所 河川環境課（岐阜県岐阜市忠節町 5-1）
【問い合わせ先(R2事務局窓口)】株式会社建設環境研究所（担当：佐野・川崎） 20-1800@kensetsukankyo.co.jp / tel 03-3988-4345 / fax 03-3988-2053